

令和2年度 磐田市立長野小学校 学校評価書

A:90%以上、B:70~89%、C:69%以下

重点	目標・取組	評価指標	自己評価	考察○改善策※	学校関係者評価委員から
やさしい子	◎友達にやさしくする子 ・各学年の発達段階に応じて、やさしさについて考える機会を設ける ・道徳教育を充実させたり、人間関係づくりプログラムを実施したりする ・きらきらタイムで、友達のやさしいところを紹介して価値付ける	あいさつや返事ができる	A	○児童会が中心となって、毎朝、「あいさつ運動」を行った。あいさつがよくできる児童を昼の放送で紹介することが、進んであいさつをすることへの意識付けになっている。 ※大きな声で進んであいさつできる子は多いが、できない子もいるので、「あいさつ日本一」を目指し、全校児童が大きな声で進んであいさつできる取り組みを考えていきたい。 ○「心のアンケート」や「人間関係づくりプログラム」を実施することを通して、一人一人の児童の悩みを把握したり、よりよい学級生活のための働き掛けを行ったりすることができた。 ○きらきらタイム(帰りの会)で、友達のやさしいところを紹介する場を設定した。自分や友達のよさが確認できたことで、学級内の人間関係づくりにより影響を与えた。	○中学校を訪問するとよく挨拶ができると感じるのは、小学校から継続して挨拶の習慣を身につけさせてくれているからだと思う。 ○「学校が楽しい」と回答している子が多くすばらしい。一人一人を大事にしている学校だと感じる。 ○社会体育の活動や授業で、自分をアピールする子供が増えた。子供が変わってきていると感じる。
		学校を楽しんでいる	A		
		友達にやさしい言葉遣いができる	A		
		学級は、互いにルールを守り、協力する雰囲気がある	A		
かしこい子	◎振り返りを学びに生かす子 ・学ぶ前と学んだ後の変容を児童が確認できるように、ノート指導やワークシートの工夫、課題の共有を行う。 ・児童の振り返りを確認したり評価したりして、指導や支援を行う。 ・対話を活性化させる条件を用いた対話活動を行う。	授業の内容が分かっている	B	○授業の終わりに、振り返りの時間を設定した。自分の学びを振り返り、成長を実感できる児童が増えてきた。教師は、授業改善を行うために児童の振り返りを活用することができた。来年度も継続していく。 ※ノート指導やワークシートの工夫を行い、振り返りを書くことをより日常化させることで、多くの児童に学びの実感をもたせ、自分の成長を感じることができるようになる。 ○全学年で本読みカードの裏面に「みなみが野学府の学習の手引き」を印刷し、保護者が家庭学習の時間や内容について意識できるようにした。 ※家庭学習の時間については、個人差があるので、学年の発達段階に応じた時間が確保できるように保護者への働き掛けを学級懇談会や学年だよりを通して行っていく。 ※分からないことやもっと調べてみたいことを振り返りの視点にすることで、児童に課題意識をもたせ、進んで教師に質問して課題を解決していこうとする意欲を高める。	○「決められた時間以上家庭学習」、「進んで学習」の項目は評価が低い。学習指導要領が変わって、自分で調べることが多くなったと感じる。勉強したいという気持ちは、自分が興味をもったことを追求していくことで増していくのではないかなと思う。 ○自分が興味をもったことを学校や家庭で取り組むことが、進んで勉強することにつながるのではないかな。
		決められた時間以上、家庭学習をしている	C		
		進んで先生に聞いたり、自分で調べたりしている	C		
		授業の終わりに、振り返りを進んで書いている	B		
		基礎的な学力が確実に身に付くように努力している	A		
たくましい子	◎体を動かすことを楽しむ子 ・オリエンテーションの充実 ・目標の設定や振り返りができる場を設ける ・運動遊びの掲示や環境づくり	屋内や屋外で、毎日体を動かしている	B	○感染症対策のため、運動会や持久走記録会は時期や内容を変更して行うこととなったが、多くの児童が自分の目標をもち、練習に取り組むことができた。 ○昼休みには、外で友達と遊んだり運動したりする児童が多く見られ、身体を動かす習慣が身に付いている。 ○感染症対策として、手洗いうがいをする時間を職員の共通理解のもとで決め、指導にあたった。学校生活の中で、手洗いうがいの習慣が身に付いている児童が多い。	○感染症の影響で子供たちは制限されることが多いが、1年たつて順応していると感じる。
		自分に合った運動の目標を見つけることができる	B		
		自分から手洗いうがいをする	B		
家庭・地域との連携	地域を理解し、親しみをもたせるとともに、豊かな感性を育てるための龍門館教育の継承を図る 本校の教育活動について理解してもらうための広報活動を充実させる	龍門館教育の伝統や地域を生かした特色ある教育活動を進めている	A	○コミュニティスクールコーディネーターの力をかりて、総合的な学習の時間を中心に、多くの学習ボランティアの協力を得ることができた。読み聞かせや登下校指導など、保護者や地域の方の協力に支えられて充実した教育活動ができています。 ○地域の歴史や自然に関心があると答えた児童が多い。龍門館から続く長野小学校の歴史や緑十字機の史話、千寿の舞、米作りなど、今後も地域教材と関わる学びの場を生かし、児童の意欲が高まるような指導を継続していく。 ※本校の教育内容を、より保護者に理解してもらうために、PTA総会や学級懇談会の際、学校の取組についての説明を行うとともに、学校だよりやホームページなどを活用して情報公開を積極的に行っていく。	○龍門館教育を進めていくため、長野の伝統や歴史を勉強する際に交流センターで学ぶという方法もある。そうすれば、センターを利用するお年寄りの方々も子供たちと同じことを学び、地域ぐるみの活動ができる。 ○子供たちの下校時に、地域では火曜日と金曜日に自治会でパトロールをしている。その他にも下校時の見守りや登校時の旗振りなど、子供たちのために地域の方々活動してくれている。
		めざす子どもの姿や、取り組んでいる教育内容などについて知っている	B		
		保護者・地域の方に学校の様子などの情報公開を行っている	A		
		子どもは住んでいる地域の歴史や自然について関心がある	B		

学校関係者評価を受けてのまとめ

本校の子供たちは、地域ぐるみで温かく見守られ、大切に育てられていると感じた。今年度も、コミュニティ・スクールコーディネーターの力をかりて、講師の方々がたくさん授業に入っただき、子供たちにとって大変充実した活動になった。来年度は、交流センターとの連携をさらに図り、地域や学校の歴史・伝統について子供たちが学ぶことができればと思う。